「頑張る学校応援プラン」

～ふくしまの挑戦と戦略～

平成31年度（令和元年度）
授業改善グランドデザイン

全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策

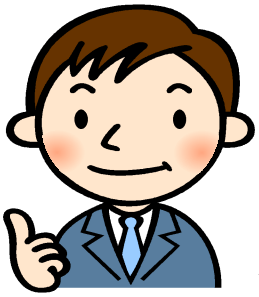
1 全国学力・学習状況調査の結果の概要 P1

2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題 P3

3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業 P6

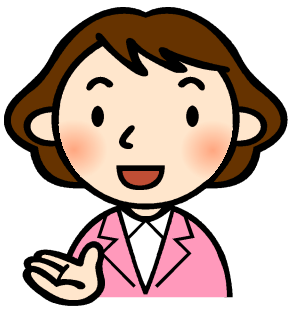
4 ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して！ P11

5 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～ P12



令和元年7月

福島県教育庁義務教育課



◎すべてのデータを、福島県教育庁義務教育課WEBサイトからPDFでダウンロードいただけます。

http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a　または　福島県教育庁義務教育課← 検索

1　全国学力・学習状況調査の結果の概要

調査に関する概要

実 施 日	平成31年4月18日（木）	
実施校数	小学校　424校	中学校　222校
調査学年	小学校　6年生	中学校　3年生
調査教科	小学校　国語、算数	中学校　国語、数学、英語

※　義務教育学校（前期課程・後期課程）及び特別支援学校（小学部、中学部）を含む。

校種・教科に関する調査結果の概要

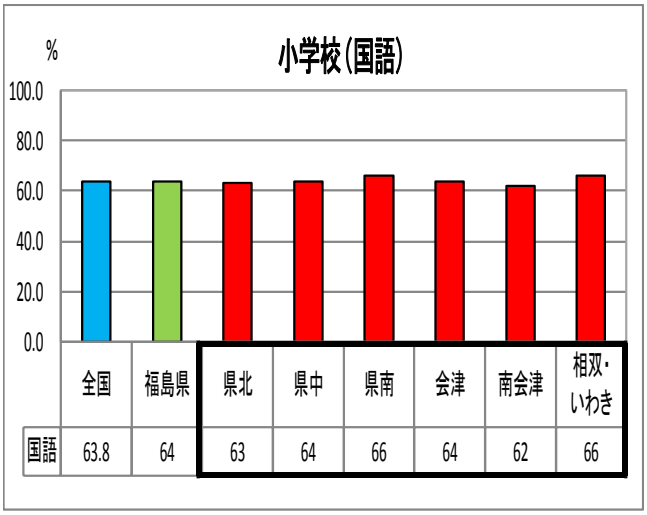
小学校	福島県児童数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所　　見
国　語	１４，７２９	６４	６３．８	おおむね全国平均
算　数	１４，７２８	６５	６６．６	全国平均をやや下回っている

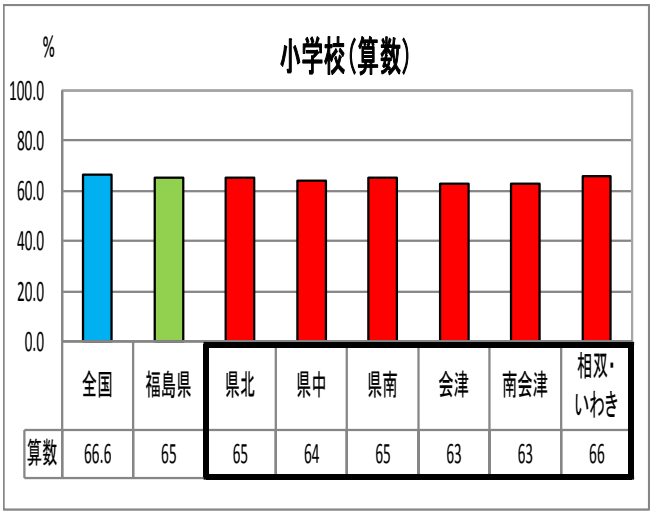
中学校	福島県生徒数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所　　見
国　語	１５，１０７	７２	７２．８	おおむね全国平均
数　学	１５，１０５	５７	５９．８	全国平均を下回っている
英　語	１５，１００	５３	５６．０	全国平均を下回っている

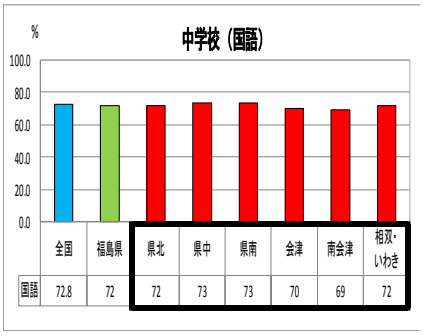
※　国の公表方針及び提供資料に基づき、県の数値については整数値による公表である。
※　英語は「話すこと」調査は含まない。

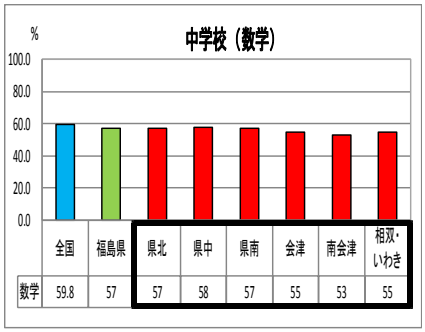
生活圏平均正答率の状況

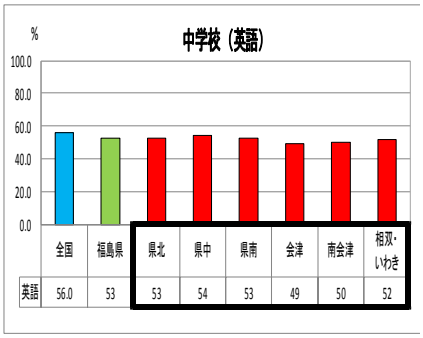
○　県内の生活圏別（県北、県中、県南、会津、南会津、相双・いわきの６地域）平均正答率において、校種・教科ごとのばらつきは見られない。
○　それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析するとともに、児童生徒一人一人の学びに応じた、指導の個別化を図る授業改善等の具体的な取組を強化していく必要がある。











児童生徒質問紙調査の結果

全国平均及び福島県における経年推移を比べると、福島県の児童生徒には次のような特長が見られる。

○　国語の授業がよく分かる児童生徒の割合が高い。また、経年推移においてもその割合が年々増えている。

○　経年推移において、算数・数学の授業がよく分かる児童生徒の割合が年々増えている。

○　自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合が高い。また、経年推移においても、その割合が年々増えている。

○　失敗を恐れないで何事にも挑戦する粘り強い児童生徒の割合が高い。また、経年推移においてもその割合が年々増えている。

調査結果の総括（公立）

○　本年度の全国学力・学習状況調査結果について、本県（公立）の平均正答率を、校種・教科別に、全国平均正答率を基準として見ると、小学校国語は、おおむね全国平均、小学校算数は、全国平均をやや下回り、中学校国語は、おおむね全国平均、中学校数学、中学校英語は、全国平均を下回っている。

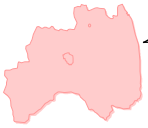
○　小学校国語や中学校国語は、昨年度同様、全国平均レベルに達している。一方、中学校数学と中学校英語に関しては、ともに全国平均を下回っており、また記述式の問題の無解答率も全国に比べ高い傾向が見られるなど、課題が大きい。

○　質問紙調査から明らかになった本県児童生徒の学習習慣については、これまで同様に全国より望ましい傾向が見られる。特に、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒の割合は、全国に比べ高い傾向が見られる。

○　各学校においては、校長の強いリーダーシップのもと、自校の結果及び児童生徒一人一人の解答状況や生活習慣等の実態を多面的に分析し、それらを全職員で共有するとともに、資質・能力の確実な育成に向け、教科や学年・校種を越えて、主体的・対話的で深い学びの視点からの不断の授業改善に全校体制で取り組むことが大切である。

2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題

ふくしまの強み（よさ）

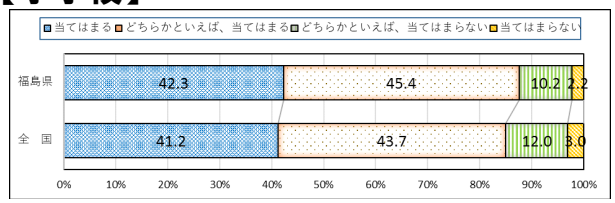


「授業の内容がよく分かる」児童生徒が増えてきています。また、しっかりと計画を立てて、粘り強く学習に取り組む姿がうかがえます。

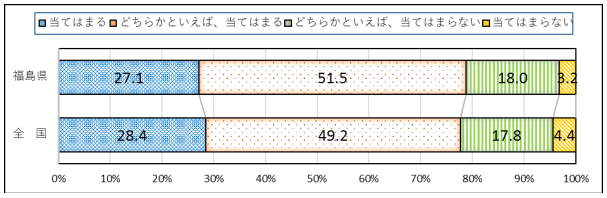
「授業がよく分かる」と回答する子どもが年々増加傾向にあります

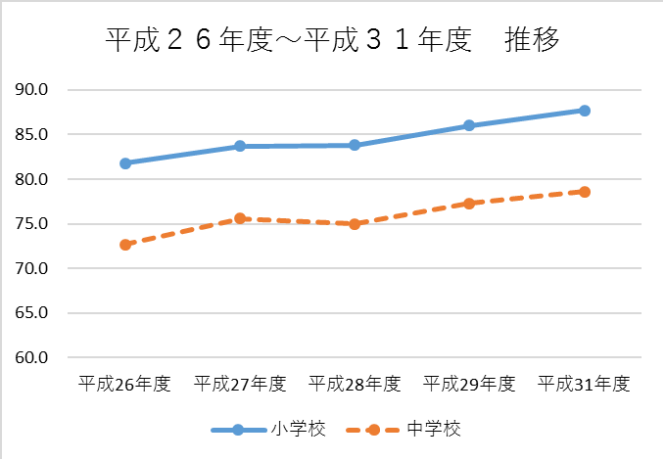
国語の授業の内容がよく分かりますか　［児童生徒質問紙］

【小学校】



【中学校】

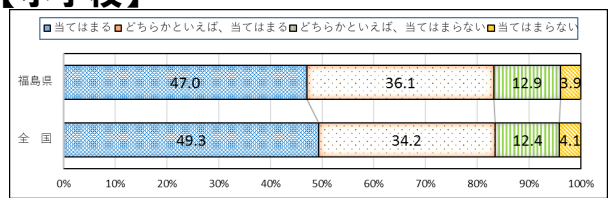




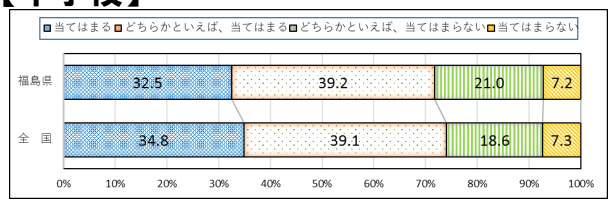
※平成30年度調査において該当項目なし

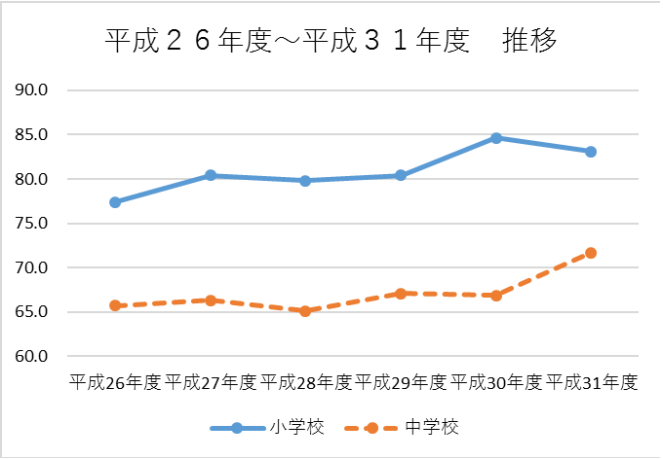
算数・数学の授業の内容がよく分かりますか　［児童生徒質問紙］

【小学校】



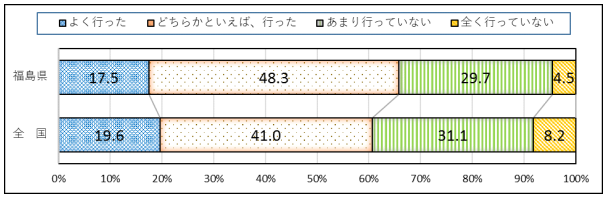
【中学校】



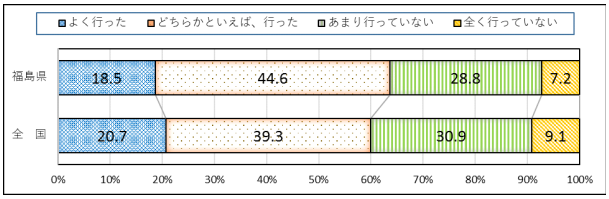


全国学力・学習状況調査の結果分析について、近隣等の学校と成果や課題を共有していますか　［学校質問紙］

【小学校】



【中学校】

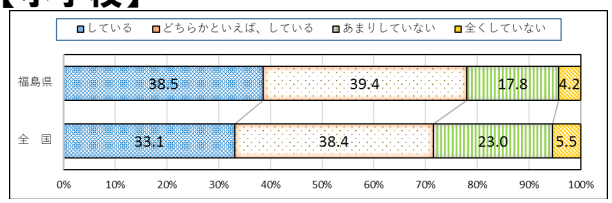


○国語の授業において授業がよく分かると答えた児童生徒の割合は、小学生は87.7%（全国比＋2.8ポイント)と全国平均を上回っており、中学生は78.6%(全国比＋1.0ポイント)と全国平均をやや上回っている。また、福島県における経年推移で見ると、５年前に比べ、小学生、中学生ともに＋5.9ポイントと、継続的に増加傾向にある。
○算数・数学の授業において授業がよく分かると答えた児童生徒の割合は、小学生は83.1%（全国比－0.4ポイント)とおおむね全国平均、中学生は71.7%(全国比－2.2ポイント)と全国平均を下回っている。しかし、福島県における経年推移で見ると、５年前に比べ、小学生で＋5.7ポイント、中学生で＋6.0ポイントと、国語の授業と同様に継続的に増加傾向にある。
○全国学力・学習状況調査の結果について、近隣等の学校と成果や課題を共有している学校の割合は、小学校は65.8%（全国比＋5.2ポイント）、中学校は63.1%（全国比＋3.1ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。

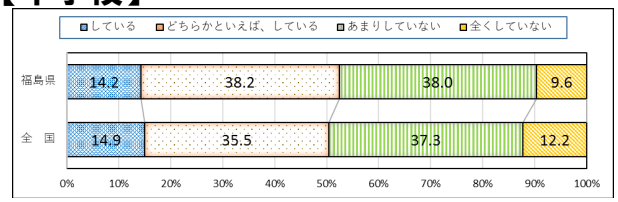
学習方法を理解し、計画を立てて家庭学習に取り組む姿勢が育っています

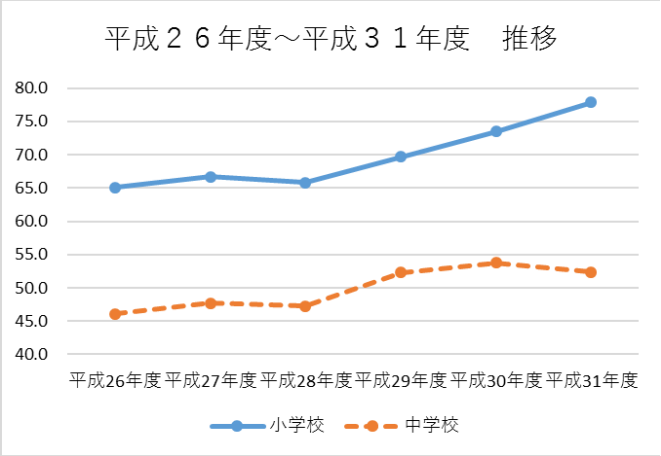
家で自分で計画を立てて勉強していますか　［児童生徒質問紙］

【小学校】



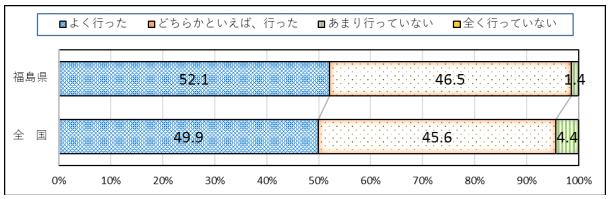
【中学校】



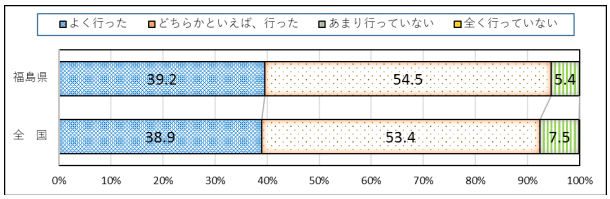


家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか　［学校質問紙］

【小学校】



【中学校】

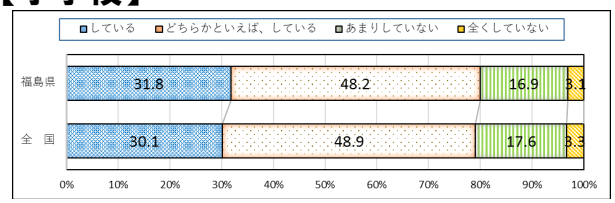


○自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合は、小学生は77.9%（全国比＋6.4ポイント)と全国平均を上回っており、中学生は52.4%(全国比＋2.0ポイント)と全国平均を上回っている。また、福島県における経年推移で見ると、５年前に比べ、小学生は＋12.8ポイント、中学生は＋6.3ポイントと、継続的に増加傾向にある。
○児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている学校の割合は、小学校は98.6%（全国比＋3.1ポイント）と全国平均を上回っており、中学校は93.7%（全国比＋1.4ポイント）と全国平均をやや上回っている。

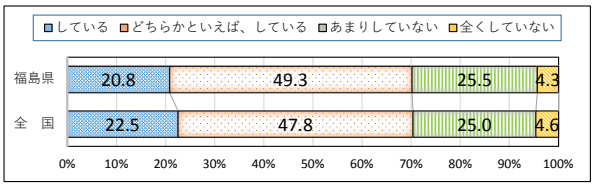
何事にも挑戦する姿勢が育っています

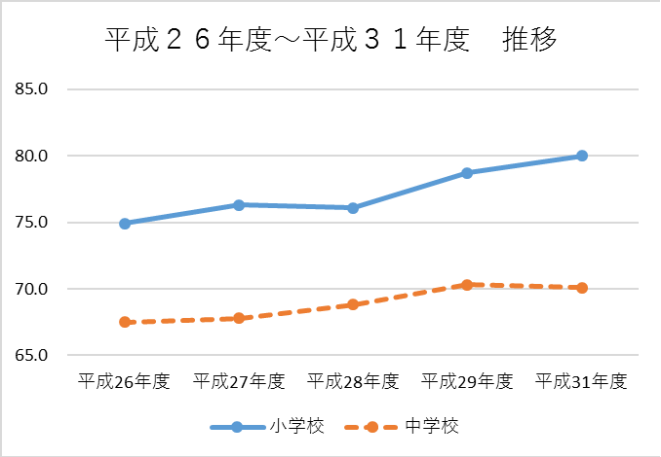
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか　［児童生徒質問紙］

【小学校】



【中学校】





※平成30年度調査において該当項目なし

○失敗を恐れないで何事にも挑戦する児童生徒の割合は、小学生は80.0%（全国比＋1.0ポイント)と全国平均をやや上回っており、中学生は70.1%(全国比－0.2ポイント)とおおむね全国平均である。しかし、福島県における経年推移で見ると、５年前に比べ、小学生は＋5.1ポイント、中学生は＋2.6ポイントと、継続的に増加傾向にある。

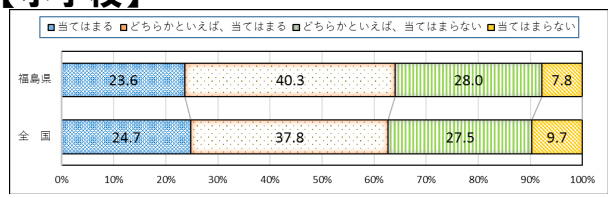
資質・能力の３つの柱である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成に努めます。

ふくしまの課題

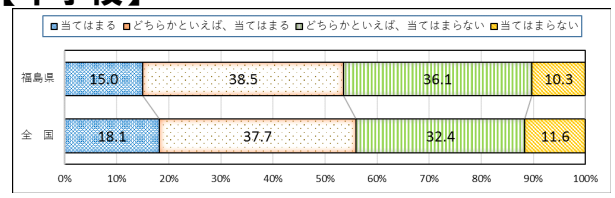
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに推進する必要があります

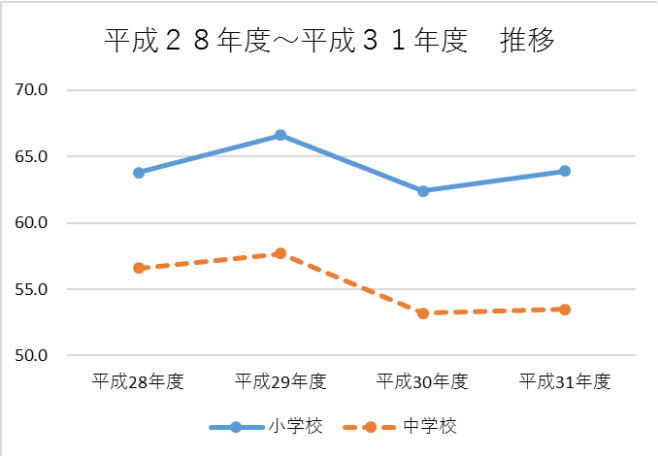
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか　［児童生徒質問紙］

【小学校】



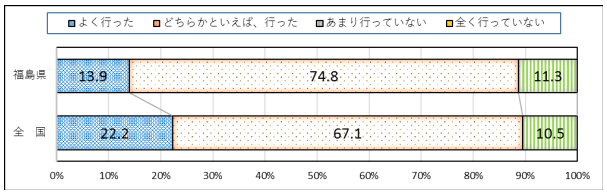
【中学校】



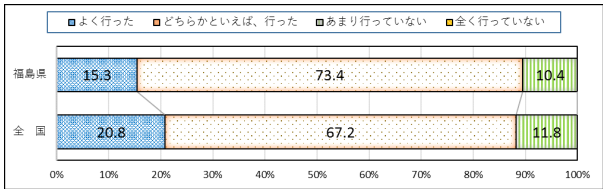


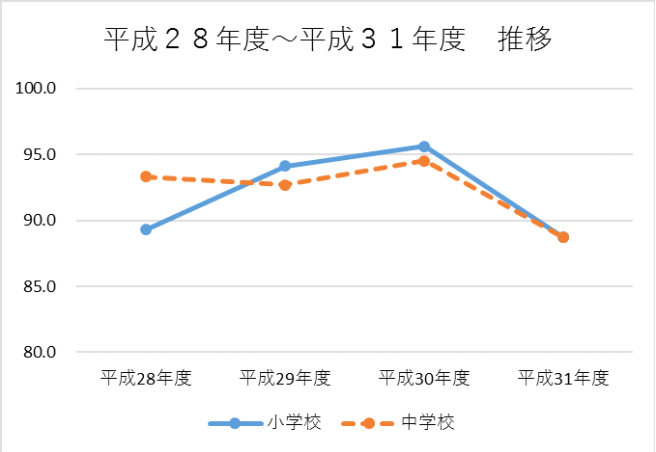
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか　［学校質問紙］

【小学校】



【中学校】





○自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している児童生徒の割合は、小学生は63.9%（全国比＋1.4ポイント)と全国平均をやや上回っており、中学生は53.5%(全国比－2.3ポイント)と全国平均を下回っている。平成３１年度において小学生は全国平均以上で推移しているが、中学生は全国平均以下での推移となっており、小中での差が課題となっている。
○習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導改善や工夫が見られる学校の割合は、小学校は88.7%（全国比－0.6ポイント）、中学校は88.7%（全国比＋0.7ポイント）と、ともにおおむね全国平均である。また、福島県における経年推移で見ると、小学校及び中学校ともに90%以上で推移していた数値が、平成３１年度においてともに減少しており、大きな課題となっている。

今後に向けたPoint！

○　小・中の接続を意識した授業改善が進められており、それが児童生徒が感じる「よく分かる授業」に結びついていると考えられます。新学習指導要領の全面実施に向けて、引き続き、ふくしまの「授業スタンダード」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、児童生徒の資質・能力を育成していきましょう。

○　ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した各学校独自の取組が進められており、自ら計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒が増えています。自分の取組を振り返ったり、学習内容や方法を見直したりするなど、自校の実態に応じて取組を改善し、自己マネジメント力を育成していきましょう。

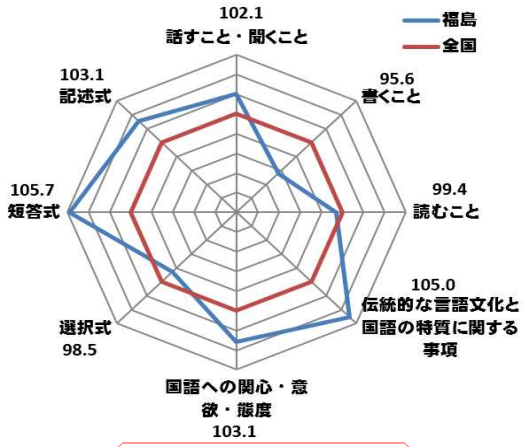
○　失敗を恐れないで何事にも挑戦する児童生徒が増えています。子どもたちの頑張りや何気ない変化を見取り、それを認め、称賛することで、「自己肯定感」が高まり、さらに最後まで粘り強く取り組むことができる児童生徒の育成につなげましょう。

3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業

小学校国語

※　レーダーチャートでは、全国の平均正答率を１００とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- ○　平均正答率は、おおむね全国平均である。
- ○　昨年、全国平均をやや下回っていた「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率が、全国平均をやや上回っており、改善傾向が見られる。
- ○　昨年同様、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、全国平均を上回っている。
- ○　「書くこと」領域の平均正答率は、全ての設問において全国平均を下回っている。
- ○　問題形式別で見ると、「短答式」及び「記述式」において全国平均を上回っている。
- ○　全ての設問において、無解答率が全国平均よりも低い。

課題が見られた設問

１一　「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」
１二　「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」
１三　「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」

力を入れたい学習

- ○　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること
- ○　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実や感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎「書くこと」領域の指導の充実に向けて

今回の調査では、〔国語1　調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）〕の全ての設問において、全国の平均正答率を下回る結果となりました。その中でも、設問三「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる」問題の正答率が特に低かったことから、今回はこの設問に着目しながら、授業改善のポイントを探っていきます。

《誤答分析から》

今回の設問は、「調査の結果をもとに考えたこと」について、そのように考えた根拠として示された二つの情報を取り上げて書くことが求められています。しかしながら、誤答類型として一番多かったものは、どちらか一方の情報のみを根拠とした解答でした。

そのため、今後、子どもたちに必要なのは、自分の考えたことなどが客観的な事象等によって過不足なく裏付けられたものになっているかどうかを振り返り、自分の考えをより深めていくことにつながる学習です。

《今後の指導に当たって》

「自分の考えが伝わるようにするためには...」

①書く目的や意図の明確化を目指して

子どもたち一人一人に書く力を付けるために、先生方は様々な言語活動を設定していると思います。日々繰り広げられる言語活動を「書くことの必然性」の視点で、もう一度見直してみましょう。

②複数の根拠から自分の考えの形成を目指して

一つだけの根拠だけではなく、複数の根拠を提示することで、情報を取捨選択させたり情報を統合させたりと、自分の考えがより伝わるための「最適解」を見つけることのできる機会を与えましょう。

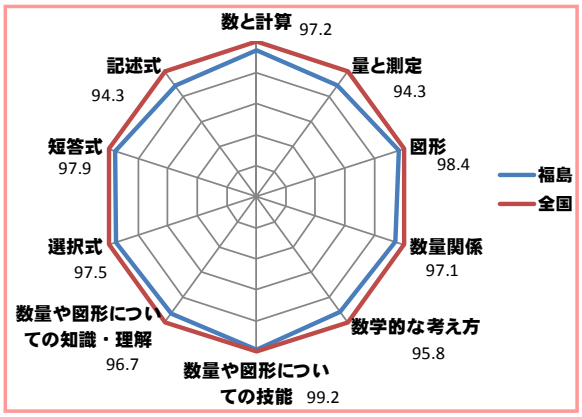
③考えの「交流」から考えの「共有」を目指して

互いに書いた文章を基にして対話的な学びにつなげたり、その学びを振り返りながら主体的な学びにつなげたりと、「言葉による見方・考え方」を働かせる場面を子どもたちに与えましょう。

小学校算数

※　レーダーチャートでは、全国の平均正答率を１００とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- ○　平均正答率は、全国平均をやや下回っている。
- ○　「量と測定」の領域の正答率が、全国平均を下回っている。
- ○　「数量や図形についての技能」の観点の正答率はおおむね全国平均である。
- ○　「数学的な考え方」の観点の正答率が、全国平均を下回っている。
- ○　「記述式」の問題の正答率は、全国平均を下回っている。また、「記述式」の問題では、求められる解答の条件を満たしていないため、誤答となる傾向が見られる。
- ○　無解答率は、すべての問題で全国平均を下回っている。

課題が見られた設問

2(3)「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」

4(2)「何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く」

力を入れたい学習

- ○　二つのグラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、読み取ったことを言葉や数を用いて記述すること
- ○　示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

H31　4「遊園地での待ち時間」の例

(2)　次に，はるとさんたちは，観覧車（かんらんしゃ）に乗るために列に並んでいます。

観覧車のゴンドラは 36 台で，ゴンドラ１台に１組ずつ乗ります。ゴンドラは１台来るのに 20 秒かかります。

今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは，あかりさんたちの 10 組後ろにいます。

あかりさんたちがゴンドラに乗ってから，はるとさんが何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを考えます。

はるとさんがゴンドラに乗ることができるのは何秒後かを求める式を書きましょう。

ただし，計算の答えを書く必要はありません。

多くの情報が示されており、必要な数量を見いだして、正しく立式するようにします。

問題文で最初に出てきた「３６」を使った式で解答した児童が、約２０％いました。数量の意味を考えて立式するようにしましょう。

示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する。

＜授業改善のポイント＞

日常生活の中で生じた問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見いだすことができるようにすることが大切です。授業では、情報過多の場面から、必要な情報を選択し問題解決するとともに、式の意味を考えたり、導き出した結論に至った根拠を説明したりするなど、自らが表現・処理したことを振り返る場を設定しましょう。

「まとめ・振り返り」でも思考を深める「問い返し」が効果的です。

□考えを深めるための問い返しの例

【事実】「どういうことですか」

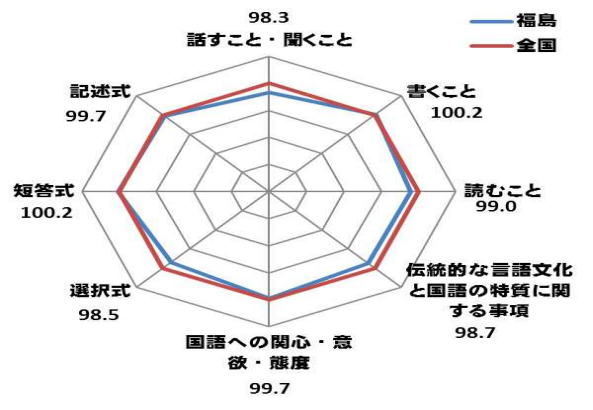
【方法】「どのように考えたのですか」

【理由】「どうしてそうなるのですか」など

中学校国語

※　レーダーチャートでは、全国の平均正答率を１００とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

○　平均正答率は、おおむね全国平均である。
○　昨年、全国平均をやや下回っていた「書くこと」領域の平均正答率がおおむね全国平均となるなど改善傾向が見られる。
○　「話すこと・聞くこと」領域においては、全国平均をやや下回っている。
○　問題形式別で見ると、「短答式」及び「記述式」の問題でおおむね全国平均であるが、「選択式」の問題は全国平均をやや下回っている。

課題が見られた設問

１二　「弁当の魅力として適切なものを選択する」
２三　「話合いの流れを踏まえ、『どうするか決まっていないこと』について自分の考えを書く」
４　「話の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する」

力を入れたい学習

○　文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること
○　話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと
○　省略表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎「話すこと・聞くこと」領域の指導の充実に向けて

〔国語2　話合いをする（文化祭）〕の調査問題全ての設問において、全国の平均正答率を下回る結果となりました。その中でも、設問三「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題」の正答率が59.2％と低い状況にあります。

《誤答分析から》

誤答分析をすると、以下の点に課題があることが見えてきます。

- 「自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように表現できていない」
- 「課題解決に向けた自分なりの考えをもつことができていない」
- 「話題を明確にして表現できていない」

《今後の指導に当たって》

「話合いを振り返る場面の設定、充実を」

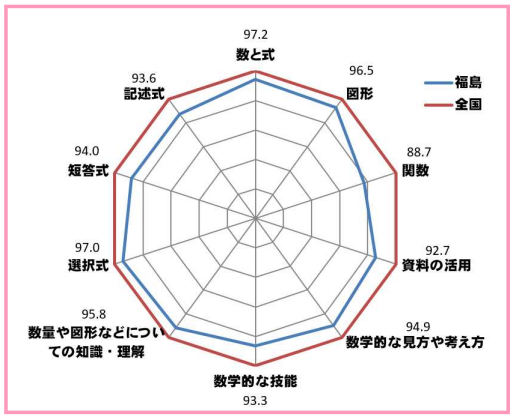
活動を振り返る上では、ビデオカメラ、タブレット型ＰＣ等で話合いの様子を動画で記録しておくことが有効です。録画した動画をモニタリングしながら、感想を述べ合ったり、批評し合ったりすることを通して、話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりすることができるよう、お互いの発言や関わり方等について共有・吟味させることが大切です。

共有・吟味させる上では、ただ単に意見を述べて終わりではなく、その意見や根拠等の妥当性についてしっかりと吟味させたいものです。その意見や根拠等、言葉や表現を吟味する過程で「言葉による見方・考え方」が鍛えられていきます。

中学校数学

※　レーダーチャートでは、全国の平均正答率を１００とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

○　平均正答率は、全国平均を下回っている。
○　領域別においては、特に「関数」及び「資料の活用」で、全国との平均正答率の差が大きい。
○　「数と式」領域の平均正答率は全国平均と近い値を推移している。
○　「数学的な技能」の観点の正答率が、全国平均を下回っている。
○　「短答式」の問題形式の正答率が、全国平均を下回っている。
○　「記述式」の平均正答率が低く、特に問題解決の方法を数学的に説明する問題に課題が見られる。
○　記述式の問題で、無解答率が全国平均と比べて高い傾向がある。

課題が見られた設問

4　「反比例の表から式を求める」
6(1)「グラフ上の点Ｐのy座標と点Ｑのy座標の差を事象に即して解釈する」
6(2)「２つの冷蔵庫の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する」
8(2)「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」

力を入れたい学習

○　変化や対応の様子に着目して関数関係を見いだし２つの数量関係を表、式、グラフで表現すること
○　数学的に表現したこと及び数学的な結果を事象に即して解釈すること
○　問題解決の方法を数学的に説明すること
○　資料の傾向を読み取り、批判的に考察し判断したことの根拠を、数学的な表現を用いて説明すること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

Ｈ３１[9]　連続する奇数の和

[9]　拓斗さんと若菜さんは，連続する３つの奇数（きすう）の和がどんな数になるかを調べています。

１，　３，　５のとき　　１＋３＋５＝９＝３×３
５，　７，　９のとき　　５＋７＋９＝21＝３×７
13，15，17のとき　　13＋15＋17＝45＝３×15

拓斗さんは，これらの結果から次のことを予想しました。

予想１

連続する３つの奇数の和は，中央の奇数の３倍になる。

説明１

nを整数とすると，連続する３つの奇数は，
$2n+1$，$2n+3$，$2n+5$と表される。
それらの和は，
$(2n+1)+(2n+3)+(2n+5)$
$=2n+1+2n+3+2n+5$
$=6n+9$
$=3(2n+3)$
$2n+3$は中央の奇数だから，$3(2n+3)$は中央の奇数の３倍である。
したがって，連続する３つの奇数の和は，中央の奇数の３倍である。

学習課題と生活経験や既習事項を関連付けて、「何を、どのように追究・解決するか」などの計画や見通しをもたせましょう。

＜結果の見通し＞・答えを予想する。
・仮説を立てる。　　など
＜方法の見通し＞・これまでの学習で使えることは何か。
・どのような順番で行うか。　　など

全体で対話を中心として課題解決する。奇数の表し方、式変形の目的の捉え等、問題解決の視点を焦点化してテンポよく扱う。

「例題」ではなく、あくまで課題解決の場面であることを意識しましょう。

わかったような・・・

記述式における無解答率の高まりが大きな課題です。「どう記述するのかわからない」「知識・技能が活用できない」等、一人一人のつまずきを見取り、支援しましょう。

予想２

連続する５つの奇数の和は，中央の奇数の５倍になる。

個人で追究することで、「予想１」についての解決方法を生徒自身が振り返る。

統合的・発展的

３つ、５つはできた。
４つの場合も・・・

（３）二人は，連続する４つの奇数の和がどんな数になるかを話し合っています。

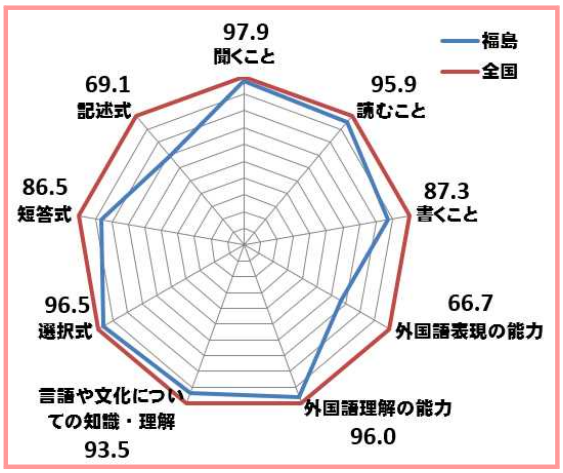
若菜さん「連続する３つの奇数や５つの奇数には中央の奇数があるけれど，連続する４つの奇数には中央の奇数がないね。」
拓斗さん「でも，連続する４つの奇数の和は何らかの数の４倍になるのではないかな。」

＜授業改善のポイント＞
○　問題解決の過程において、一人一人の学習の様子を見取り、つまずきや誤答を生かすなど、生徒自身が主体的・対話的に判断したり、改善したり、表現したりする学習活動を取り入れ、資質・能力を確実に育成することができる授業を実践する。

中学校英語

※　レーダーチャートでは、全国の平均正答率を１００とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

○　平均正答率は、全国平均を下回っている。
○　「聞くこと」については、全国平均をやや下回っている。
○　「書くこと」については、全国平均を下回っている。
○　「外国語理解の能力」については、全国平均をやや下回っている。
○　「言語や文化についての知識･理解」については、全国平均を下回っている。
○　「短答式」の問題は、全国平均を下回っている。
○　技能統合の記述式の問題は、無回答率が全国平均を上回っている。

課題が見られた設問

９（１）②　「文の中で適切な接続詞を用いる」
９（２）②　「一般動詞の１人称複数過去時制の肯定文を正確に書く」
４　「聞いて把握した内容について、適切に応じる」
８　「書かれた内容に対して、自分の考えを示す」

力を入れたい学習

○　語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと
○　会話の流れを理解し、時制を正しく判断して基本的な文を書くこと
○　話し手の意図を正しく理解し、適切な応答を返すこと
○　話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

多様な言語活動による「主体的･対話的で深い学び」

○　ねらいを達成するために、次のようなことに留意して言語活動を設定します。
- 授業のどの段階に位置付けるか。
- どのような言語活動にするか。（記録、要約、説明、論述など）

○　言語活動は、思考力･判断力･表現力等を高め、言語能力を育みます。
※　読書は、語彙を豊かにするとともに、言語能力を向上させる重要な活動です。

（ふくしまの「授業スタンダード」より抜粋）

○　「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、及び「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを大切にしましょう。
○　コミュニケーションを行わせる場合は、目的や場面、状況などを意識させて、既習のものを含めた多様な表現を実際に使用させましょう。

8　英語の授業で，次のような資料が配られました。これを読んで，文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

> There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

（平成３１年度全国学力・学習状況調査　調査問題　英語より抜粋　※（注）の語彙については省略）

○　聞いたり読んだりしたことを基に、理由を述べながら意見や考えを話したり書いたりさせるなど、技能統合型の言語活動を積極的に取り入れましょう。
○　「書くこと」における無回答率が高いことから、「書いて伝える」ことに対する意欲を高める指導が大切です。中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説外国語編では、「求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導を行い、慣れていない生徒には、その生徒との直接的な対話によって書きたい内容を引き出しながら、書く活動への抵抗感を減らしたり少しずつでも英語でその内容を表現したりできるよう支援する」としています。

4　ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して!

「頑張る学校応援プラン」～ふくしまの挑戦と戦略～
『学力向上に責任を果たす』3つのポイント

【ポイント1】「主体的・対話的で深い学び」により、思考力・判断力・表現力等を育む
～全国学力・学習状況調査の総括と授業改善に向けての戦略～

ふくしまの「授業スタンダード」を有効に活用し、多くの教室で「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られてきています。今後さらに、次のポイントを大切にして授業改善を進めましょう。

問題解決の過程で働かせた「見方・考え方」を鍛える「まとめ・振り返り」

○　主体的・対話的で深い学びを実現するために、問題解決の過程で働かせた「見方・考え方」を児童生徒に意識させることが必要です。そのためには、ねらいを明確にした「まとめ・振り返り」の場を設定することが求められます。「何を学習したか」をまとめ、「どのように学習してきたか」を振り返ったり、対話を通して、自分の成長や変容、友達のよさや集団で学ぶよさに気付いたりすることができるように、単元を見通した評価計画のもと、「まとめ・振り返り」の場を設定します。

※詳しくは、「ふくしまの『授業スタンダード』」参照

【ポイント2】家庭学習の充実により、知識及び技能等の定着を図る
～自己マネジメント力の育成を図る～

ふくしまの「家庭学習スタンダード」を有効に活用し、自己マネジメント力の育成を通して、知識及び技能等の定着が図られてきています。今後さらに、次のポイントを大切にして授業改善を進めましょう。

学びの連続性を意識した、授業と家庭学習の学習サイクルの確立

○　福島県の児童生徒は、家庭で計画を立てて学習をしており、主体的に家庭学習に取り組んでいます。授業と家庭学習の学習サイクルを確立することは、自己マネジメント力の育成にもつながります。授業と家庭学習の双方を充実させ、相互の関連を深めることで、児童生徒に学ぶ意義、充実感、達成感、有能感を味わわせることができます。

〈宿題を活用した授業例〉

・宿題でレディネスを高め、主体的に既習事項を活用する授業

・授業の「まとめ・振り返り」をもとに、自分に合った宿題を選択する授業

※詳しくは、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集」参照

【ポイント3】「カリキュラム・マネジメント」による学び合う体制づくり
～校内研修の活性化に向けて～

カリキュラム・マネジメントにより、教員が豊かに学び合う校内体制の構築を推進している学校が増えてきています。今後さらに、次のポイントを大切にして授業改善を進めましょう。

年間を通した学習指導の工夫改善

○　管理職のリーダーシップのもと、研修主任等を中心に校内研修を工夫し、活性化を図るとともに、教員相互の学び合う体制を作ることで、年間を通した学習指導の工夫改善を継続的に行うと効果的です。

「タテ持ち」による授業改善　**「教科担任制」による授業改善**

「専科教員」による授業改善　**「互見授業」による授業改善**

5　各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～

本県では、「全国学力・学習状況調査」及び「ふくしま学力調査」を実施しています。各調査の特徴を整理することにより、授業改善に生かすことができます。

全国学力・学習状況調査とは？

目的

毎年４月に実施される、文部科学省による全国調査です。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（実施要領から抜粋）

新規事項

英語の調査には、ＰＣを使用しての「話すこと」調査も実施されました。

○　中学校の教科に関する調査に、今年度から新たに英語を追加する。
○　教科に関する調査について、知識・活用を一体的に問う調査問題とする。（通知文から抜粋）

結果の活用

相関関係等を探ることにより、教育施策及び授業改善等を支援することができます。

○　各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。（実施要領から抜粋）
⇒　各教科の領域等における学習状況の把握が可能、その結果、授業改善に生かすことができる。
⇒　質問紙調査による分析が可能、その結果、学習との相関関係のある項目への支援をすることができる。　など

「ふくしま学力調査」とは？

概要

国語、算数・数学の出題範囲は、調査を受ける前の学年までに学習した内容です。

○　日付　　平成31年4月11日（木）
○　学年　　小学校4・5・6年生／中学校1・2年生
○　項目　　学力調査（小学校⇒国語、算数／中学校⇒国語、数学）、アンケート（質問紙調査）
○　視点　　学習した内容がどれだけ身に付いているか、一人一人の学力がどれだけ伸びているか

特長

一人一人が「どれだけ成長できているか」が分かる調査です。

子どもの伸びる時期やスピードは様々です。しかし、一人一人確実に成長しています。新たに始まった「ふくしま学力調査」は、小学校4年生から中学校2年生を対象に実施することで子どもの学力の伸びを把握することができる調査です。この調査により、保護者の皆様は、お子さんのよさや学力を、さらに見つめることができるようになります。

福島県教育委員会は、「ふくしま学力調査」を通して、一人一人の学力を確実に伸ばし、子どもたちの夢をかなえる教育を進めていきます。

特長１　：　毎年の学力調査の結果を見比べることによって、１年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見ることができるようになります。 ※ 「学力の伸び」は令和2年度以降（2年目以降）の調査から見ることができるようになります。

特長２　：　アンケートの結果から、ルールやマナーを守る意識や、目標に向けて粘り強くやり抜く力などが、どれだけ身に付いているのかが見えるようになります。これらの力は、学力との関係が高いといわれています。

特長３　：　特長1及び特長2の調査結果から、学力を伸ばしている効果的な指導方法を明確にし、授業改善や児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を図ることで、お子さんを伸ばしていきます。